



南条っ子

南条小学校だより

南条っ子は 進んで学ぶ子

R2.9.23 No.36

思いやりのある子

かっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



○ 自転車の乗り方について

先週、私のスマホに、友人から次のような連絡がありました。(一部省略)

今日、午後4時15分頃、帰宅途中、○○の交差点で、自転車に乗った小学校○年生くらいの子が飛び出してきて、轢きそうになりました。クラクションを鳴らし避けたため、幸い接触等の事故にはなりませんでしたが。

普段、小学生の下校時間と自分の帰宅時間が重なる時が多いので、気を付けないといけなく注意していました。しかし、今日の自転車の小学生は、想定外でした。(今まで、小学生がああ道を通っているのを見たことがなかったものですから。)また、自分の家の目の先なので、余計にショックを受けています。事故にならなくて、本当に良かったです。今でも思い出すと、心臓がドキドキします。

自転車で飛び出してきた子どもを非難する内容はひと言もありませんでした。本来なら、「学校できちんと指導してください」と言いたかったのですが、車を運転する上で、これから気を付けたいということを書いていました。

友人は、普段からあまりスピードを出して運転することはなく、集落の中、家の近くで減速していたということもあり、幸い事故につながりませんでした。もし、事故になっていたら、轢いた方も轢かれた方も両方とも不幸になってしまいます。

歩行者であっても自転車であっても、急な飛び出しは絶対にはいけません。一時停止して、安全確認をしっかり行いましょう。また、自転車でのスピードの出し過ぎに気を付けましょう。歩行者にぶつかると、最悪の場合、死亡事故につながり、加害者になります。

他にも、自転車で町外に出かけているという話を聞いたことがあります。学校では認めていません。そのようなことがありましたら、ご家庭でもきちんと注意をお願いします。

＜ 南条っ子のきまり 自転車について ＞

- ・交通ルールを守って自転車に乗る。 ・横断歩道は、降りて引いて渡る。
- ・ヘルメットを必ず着用する。
- ・自転車は時々点検し不備がないようにしておく。
- ・日が暮れてからや雨・雪などが降っているときは乗らない。
- ・1・2年生は、保護者監視の下、自分の集落の地域だけ乗ってもよい。
- ・3年生以上は、南条地区内のほかの集落まで乗ることができる。

○ 子は親の鏡

『子どもは親の鏡』 ドロシー・ロー・ノルト

子どもは、批判されて育つと 人を責めることを学ぶ
 子どもは、憎しみの中で育つと 人と争うことを学ぶ
 子どもは、恐怖の中で育つと オドオドした小心者になる
 子どもは、憐れみを受けて育つと 自分を可哀想だと思ふようになる
 子どもは、馬鹿にされて育つと 自分を表現できなくなる
 子どもは、嫉妬の中で育つと 人をねたむようになる
 子どもは、ひげめを感じながら育つと 罪悪感を持つようになる
 子どもは、辛抱強さを見て育つと 耐えることを学ぶ
 子どもは、正直さと公平さを見て育つと 真実と正義を学ぶ
 子どもは、励まされて育つと 自信を持つようになる
 子どもは、ほめられて育つと 人に感謝するようになる
 子どもは、存在を認められて育つと 自分が好きになる
 子どもは、努力を認められて育つと 目標を持つようになる
 子どもは、皆で分け合うのを見て育つと 人に分け与えるようになる
 子どもは、静かな落ち着いた中で育つと 平和な心を持つようになる
 子どもは、安心感を与えられて育つと 自分や人を信じるようになる
 子どもは、親しみに満ちた雰囲気の中で育つと 生きることは楽しいことだと知る
 子どもは、まわりから受け入れられて育つと 世界中が愛であふれていることを知る
 あなたの子どもはどんな環境で育っていますか？

昨年のPTA総会の時に、保護者の方の前でこの詩を読みました。この詩を書いたのは、アメリカのロサンゼルス出身のドロシー・ロー・ノルト博士(1924年～2005年)です。彼女は40年以上にわたって、『家族について』の講習や親子関係の研究を続けていました。

彼女は、この詩について、次のように語っていたそうです。「子どもは親を手本にして育ちます。毎日の生活での親の姿こそが、子どもに最も影響力を持つのです。そのことを、詩『子は親の鏡』で表現したかったのです。」

良いことも悪いことも、子どもは一番の見本である『親』を見て学習します。愛する子どもには幸せな人生を歩んでもらいたいと親ならみんなそう思っているでしょう。そのためには、親自身が、自らの行動が子どもの『鏡』となっていることに気付くべきなのでしょう。自分の姿は、子どもにどのように映っているのかと思うと、時々ハッとさせられることはありませんか。

ところで、子どもの様子を見てみると、年々、自分の思い通りにいかない時にかんしゃくを起こして暴れたり、キレて人や物に当たったりする子どもが増えているように思います。これらは、集団生活を送っていく中では、大変迷惑な行為になります。どんなに謝っても済まない結果を招くこともあります。そうならないためにも、腹が立った時、思い通りにならない時の対処法を小さいうちから身に付けさせる必要があります。ところが、ご家庭で、「しつけ」として子どもに暴力をふるって注意しているようであれば、根本的な解決にはつながりません。子は親の鏡なのです。きっと、自分より弱い相手(弟、妹、ペット等)に暴力をふるうようになるでしょう。まずは、落ち着かせて、きちんと対話をするところから始める必要があります。